

「人権」ってなあに？ 身近になくて分からない？

——いやいや、身近なところにたくさんあるんですよ。

要は「気づいていない」だけ。

だからこそ、**そこにある人権に気づく**ことが大事になってきます。

この通信は、人権についてのトピックスを紹介し、

人権について考える「きっかけ」を蒔いていきます。



人と人が面と向かって互いに意思疎通をする——それが一般的です。苦手な人・気持ちを通じない人とのように付き合うか、と学生時代に悩んだものです。

しかし、SNSにおける人間関係が「普通」になりつつある現代。もしかして、スマホを手にもしながら頭を悩ませている人もいるのではないのでしょうか。

それについて、元AKB48の板野友美さんは、インタビューで次のように語っています。

顔と顔を付き合わせないSNSは人権を考える「出発点」？



第1号

2018年

11月1日

【文責】

人権・同和教育
担当：長友

ツイッターは2010年から使っていて、フォロワーは200万人以上。いち早く情報を伝えると、すぐに感想をもらえるのが便利です。14歳、AKB48でデビューしたときはガラケー。情報発信は、この10年ですごく変わりました。

指先一つで発信できる反面、文章のニュアンスが難しいです。柔らかく言っているつもりでも、文章にするとときつく感じることもあります。そんなとき、私は絵文字をつけて気持ちを伝えやすくしたり、真剣なときは逆に絵文字を付けなかったりしています。大切なのは、自分の発言に責任をもつことです。ネットは匿名で責任をもたずに書き込めるから、相手がすごく傷つく言葉でも言えてしまいます。私は芸能の仕事をしているから、(傷つく言葉を書き込まれても) ある程度はしょうがないというか、良くも悪くも、みなさんにさらされている面があります。でも、そうではない子どもたちが、例えば、学校の誰かが書いたのかわからないネット掲示板で乱暴な言葉をぶつけられるようなことは、一番避けなくてはならない。誰もが簡単に発信できるからこそ、言葉に責任をもたなくてはいけないと感じます。

「炎上」ということもあります。ネットの内容がいいのか悪いのか、本当かそうでないかを判断すべきだと考えます。ネットで攻撃したとしても、その元の内容が正しかったら、その攻撃者(発信者)は被害者にもなりえるからです。

(7月16日付「朝日新聞DIGITAL」要約)

指先一つで簡単に伝えることができる——そんなSNSだからこそ、「相手がどう思うか」を考える必要性を、板野さ

んは訴えています。SNSは人権を考える身近な「きっかけ」なのかもしれません。あなたの発信は大丈夫ですか？

第1号

【ご家庭から】学級担任にお渡しください。

年 組／お名前

(ペンネームでもO.K.ですよ！)

◆書いていただいた内容を、この通信で紹介してもよろしいですか？ (○ ・ ×)